

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：五島 誠

実施場所：日本青年館	実施日：令和5年10月17日18日
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b></p> <p>第28回清溪セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 二人は同時に親になる 産後のずれの処方箋</li> <li>・講演 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援</li> <li>・講演 子どもたちのこころと命を守るために 学校にアウトリーチする NPO</li> <li>・講演 こども家庭庁の創設とこども政策</li> <li>・講演 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる</li> <li>・講演 ヤングで終わらないヤングケアラー</li> <li>・講演 すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには</li> </ul>	
<p><b>■参考とすべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済対策としての子育て支援という側面を見直す必要がある。子育て支援を重点的にやるといった時に公共事業の利害関係者や高齢者などの大きな反対の声があったが、結果的にそうした声も、子供支援を起点にしたまちの好循環の中で理解に変わっていった。</li> <li>・産業振興も事業者ではなく市民へ徹底的にやることによって事業者へいく。一過性ではなく好循環を生むことが重要。</li> <li>・子供自身に支援をする事が大事。申請者や振込口座を子供自身に。</li> <li>・経済対策だけではなく環境整備、質も量も充実させていく。すべてのこどもをまちが支援していく。</li> <li>・はじめに子育て支援に必要な予算、人員の確保をしてその後に全体をやりくりする。</li> <li>・発想の転換をしていかなければならない。①上から ②一律 ③これまでどおりの時代は終わった。市民目線で地方ごとに新しい政治に挑戦しなければならない。</li> </ul> <p>お上意識 ⇒ 自治意識  横並び主義 ⇒ 地域の特性  前例主義 ⇒ 新しい政治  自分の目で見、耳で聴き、脳みそで考える。この事が政治・行政に求められている。</p>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確なビジョンと大胆な人事、予算のシフトを行う中でいかに市民の理解が得られるかが重要なポイントである。その中で政治の役割は準備に労力を費やすことではなく決断をする事である。</li> </ul> <p>庄原市はそこそこ子育て支援に力を入れてきたが、今こそ更にドラスティックなシフトが必要な時ではないだろうか。国を待っていても仕方がなく、相対的にも収入の少ない子育て世代の経済支援、子供への直接的な支援を通して、まち全体で子供を応援していく状況をもっと創りだしていくことが求められる。補助金での一時的な支援ではなく無償化の恒久化などにより進めるべきである。そしてそこに必要な予算は最初に確保してからそれ以外の予算を組んでいけば今すぐにでも出来ない事ではないと考える。</p> <p>また、そうした経済的支援のみならず、環境の整備や一人一人によりそった優しいまちづくりが求められている。</p>	

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 國利 知史

実施場所：日本青年館ホテル	実施日：令和5年10月17日～18日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b> 第28回清溪セミナーのテーマは「子供を守る」であった。 本市は少子高齢化が進み、昨年の出生数も150人と危機的状況の中で、「子供を守る」というテーマでの研修で本市の少子化対策の参考にしたいと思い参加した。  講義内容 10月17日 講義Ⅰ 二人は同時に親になる「産後の」ずれの処方箋 狩野 さやか 講義Ⅱ 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援 井上 登生 講義Ⅲ 子どもたちのこころと命を守るために 重永 侑紀 講義Ⅳ 子ども家庭庁の創設とこども政策 山田太郎 10月18日 講義Ⅴ 子どもを本気で応援すればまちは元気になる 泉 房穂 講義Ⅵ ヤングでは終わらないヤングケアラー 仲田 海人 講義Ⅶ すべての子どもの成長と、子育てを支えるために 野田 聖子	
<b>■参考とすべき事項</b> 講義Ⅰ 二人は同時に親になる「産後の」ずれの処方箋 狩野 さやか 日本社会は女性が子育てを担い、男性が働いて生活費を稼いでくるといった慣例があった。しかし現在は女性の社会進出が進み、女性も男性同様に働く時代になっている。そのような中で育児に関しては、昔の慣例が抜けておらず、女性に大きな負担がかかっている。女性は出産で命を懸けて子を産み、その後も子育てや仕事といった負担が大きくなると、子育てのストレスや、それが夫へのストレスにもつながり、夫婦関係にも溝が生まれることが多くなってくる。 仕事と家庭の意識に関しては、男性と女性で考え方に差異がある。この考え方の違いがすれ違いを生んでいく。今後はこの意識の違いを埋めていくことが社会にとって必要になってくる。男性だから、男性はこうあるべきだ、母親だから、女性だから、父親だからなどの固定観念を捨てる必要がある。この考え方を捨てて柔軟になることが必要になってくる。 これからの新常識は①育児は一人ではできない②「らしさ」から自由になる③女性の問題から男女両方の課題として考える。である。  講義Ⅴ 「子どもを本気で応援すればまちは元気になる」 講師 泉 房穂 明石市では徹底的に子供施策を行う事によって、経済の好循環を生み出している。自治体では財源によって施策を行うことが多いが、明石市では「この施策をするためにはどのようにして財源を作っていくか」という考え方があり、根本的に考え方が違っていた。 具体的な主な施策としては①18歳までの医療費無料化②第2子以降の全員保育料無料化③満1歳までおむつ無料化④中学生まで給食費無料化⑤親子とも遊び場の無料化である。	

これらを所得制限なしで行っている。また、コロナ過で収入減に陥り教育への不安が増大してくると、大学の学費の立替や、高校進学 of 給付型奨学金、生理用品無料配布なども行った。その他もひとり親世帯への養育費立替払いや、全小学校区で子ども食堂を開設したり、徹底的に子育て支援の施策を展開している。そのことにより高校卒業後、明石市を離れた若者たちが子育てをする頃になると「やっぱり明石が良い」「明石で子育てがしたい」と明石市へ戻ってくる現象が起こっている。

子育て世帯が多くなってくると、まちの商店街も賑わいを取り戻し、地域経済も潤い、コロナ過であっても過去最高益を記録している。

当初、子育て施策に反対であった高齢者や地元経済界も子育て施策の結果が出てくることで潤いが生まれている。

市の財政としても税収が増え、貯金が増え、借金が減っているという事である。

明石市では「こどもを核としたまちづくり」の理念がはっきりとしていて、ブレずに徹底的に施策を行っている。予算的にも無駄な事業を洗い出し、予算をやりくりすることで子ども対策の予算を作り出している。

明石市では今までの「国から」→「全国どこでも一律に」→「これまで通り」の時代から、「市民目線で」→「地域ごとに」→「新しい政治に挑戦」という発想の転換を行った。今まで通りの市政を行うのではなく、市民の目線に立ってその地域それぞれに合った施策で、新しいことに挑戦していくことがこれからの「まちづくり」には必要であると学んだ。

#### ■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

##### 講義Ⅰ 二人は同時に親になる「産後の」ずれの処方箋

子育てに関する意識調査では、女性と男性では開きがあることが分かった。そのことが原因で夫婦関係にすれ違いも生じる。これからは夫婦ともに一緒になって子育てに取り組む時代である。本市職員においても、女性に負担がかかりすぎないような対策が必要だと感じた。休みを取りやすくして男性職員の育児休暇取得率を上げていくことが必要であると感じた。休暇を取得しやすくするためには、同僚に迷惑がかかるとか、休めないという状況を防ぐため、ある程度の業務の分散化、効率化を進めていかなければならないと感じた。

##### 講義Ⅴ「子どもを本気で応援すればまちは元気になる」では

明石市の事例を知ることで、少子化が危機的な状況である本市にとっては非常に参考になる講義であった。

子育て施策に徹底的に取り組むことで経済の好循環を生み出し、市民の幸福度も上がっていた。

しかし明石市は、姫路市、神戸市、大阪市といった大都市のベッドタウンであり、交通の便が良い地域であることや、面積が本市の30分の1ほどと狭く、災害なども少ないといった立地的、地理的にも有利な面が多いという事が分かった。災害が多く面積も広い本市がそのまま同じような施策を行えるかという事と難しいと感じた。

講義の中でも言われていたように、庄原市の難しい現状の中で、「明確な方針を掲げ、ブレることなく」「庄原市の実情に合った施策を」「前例にとらわれない全く新しい政治」を行っていくことが、本市が持続的に生き残っていくためには必要になってくると感じた。

前明石市長は自分でも言われていたが、トップダウンで施策を行ってきたので、自分の思い描く施策を実行しやすいと感じた。しかし、職員にのびのび職務に従事してもらうためにはトップダウンだけだと難しいと感じるので、そのあたりが課題であると感じた。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 林 高正

実施場所：東京都 日本青年館ホテル 第28回 清溪セミナー	実施日：令和5年10月17日～18日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b> 今回のセミナーは徹底して「こども」に関する講義ばかりでした。そんな講義の中でも、前明石市長の泉房穂氏の講義を受けたくて参加したというのが本音です。	
<b>■参考とすべき事項</b> <b>泉房穂氏の講義より：</b> 政治は誰がやっても同じではない。政治は生活そのものである。子どもに重点投資をすることで地域経済が上昇する。明石市のまちづくりの根幹には、「誰ひとり取り残さないやさしいまちづくり」という理念があります。その「誰ひとり取り残さない」に泉さんは執着され、明石市は市民満足度関西1位、全国2位となりました。 何がそうさせたかですが、1位子育て環境の充実、2位本のまちの推進、3位良好な都市環境の整備、により住んでいる市民の91.2%が住みやすいと答えているのです。また、全国戻りたい街ランキング2021は、第1位です。つまり、明石を出て行ったけど、家族を伴って明石に戻る人が全国で一位ということです。 多くの独自施策を実施されておりますが、明石市独自の5つの無料化を紹介すると、①医療費 18歳まで全員②保育料 第2子以降の全員③おむつ 満1歳まで（宅配も）④給食費 中学生⑤遊び場 親子ともの5点ですが、すべて所得制限なし、自己負担なしです。これらは、こどもを核としたまちづくりになります。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b> すべての子どもたちを、まちのみんなで、本気で応援すれば、まちのみんなが幸せになるという理念。本気とは、人と金と言われましたが、使い道を大胆に変更した予算のシフトで財源を確保し、人口増と経済の好循環で税収が増加（8年で32億円アップ）。基金残高も70億円アップの121億円、実質公債費比率2.8%と県内29市中1位という持続可能な自治体経営です。  まさに好循環の環が連続して起きた結果、「こどもを本気で応援すればまちは元気になる」になったのです。確かに泉さんの話し方は上品には程遠いものがありましたが、それほど情熱をもって命をかけて明石市をみんなが大好きな明石市に変えた張本人は泉房穂だと宣言されたものと理解しました。政治は、結果です。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：徳永 泰臣

実施場所：東京都港区 日本青年館ホテル	実施日：令和5年10月17日～18日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b> 清溪セミナーを受講した。 今回のテーマは「子どもを守る」ということで、ヤングケアラーについて、こども家庭庁について、こどもたちの心と命を守るために何をすればいいのか、等々を勉強してきました。	
<b>■参考とすべき事項</b> 特に泉房穂前明石市長の講演でこども支援を徹底的に行なうまちづくりについてのお話を聞かせていただきました。 泉前市長は「政治は誰がやっても一緒ではない」政治が変われば町も生活も変わる。何もせず、やり尽くさずに諦めることのないよう、まだまだ出来る事を見つけてほしい。泉前市長の変わらぬ思いは、まちを作るのは“ひと”“これからの明石のまちを作るのは、今の明石のこどもたち、そのこどもたちに借金を残すような税金の無駄遣いをやめ、頑張るこどもたちを、まち全体で応援する。そんな明石を作っていきたい。それが明石の未来に繋がると信じている。 ○泉前市長は明石市をこどもを核としたまちづくりを描き、その理念として、全てのこどもたちをまちのみんなで、本気で応援すればまちのみんなが幸せになる。 ○負担の軽減として、明石市独自の5つの無料化(医療費、保育料、おむつ、給食費、遊び場) ○寄り添う支援として、養育費の立替払い、親子の面会交流支援、無戸籍児の支援、児童扶養手当の毎月支給、こども食堂全小学校区で開設、児童相談所の改革 ○環境の整備として、少人数学級、小学一年生は30人学級、中学校35人学級、小中一貫校は全学年30人学級や学童保育の充実、保育所整備(受入れ枠の増) などきめこまやかな施策を次々と展開され、 その結果として、市民の満足度が大きく上昇し、本当に住みやすい子育てしやすい街第一位となった。	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

今回のセミナーは少子化が深刻な庄原市にとって、非常に参考になる講義ばかりでした。このセミナーで得た事を、庄原市の実情にあわせていくことが重要であると感じた。今後の市政に反映していけるよう私達も努力していきます。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。